

調査概要

日時：2023年1月12日（木）10時～12時

会場：座間市消防庁舎

行政視察次第

- 1 歓迎のあいさつ 座間市消防本部 消防監 消防長 宮野様
- 2 視察者 あいさつ 伊勢原市議会議員 越水
- 3 調査事項
座間市消防庁舎建設に至るまでの経緯、施設概要
- 4 質疑
- 5 お礼のあいさつ 伊勢原市議会議員 越水

視察調査内容

座間市消防庁舎建設に至るまでの経緯、施設概要

座間市消防庁舎

座間市概要の説明

人口13万人、世帯数6万3千世帯、面積17平方キロメートル、職員147名、団員定員223人・実員185人

消防本部、東分署、北分署

組織体制

消防団

海老名市・座間市・綾瀬市消防指令センター

新消防庁舎建設に至るまでの経緯

旧消防庁舎は昭和45年に建設、消防職員も36名程度であったそうですが、当時の消防力としては十分な機能を果たしていたようです。時代の変化の中で災害形態も大きく変わり、職員数、消防車両台数も増員、増隊されました。防災拠点として機能を果たすには、老朽化が激しく耐震性機能などから移転計画が検討されていました。

平成23年3月に発生した東日本大震災を機に消防庁舎建て替えについて、議論が活発化。4月には副市長をリーダーとする新消防庁舎建設検討委員会を設置。

委員会から座間市基地返還跡地利用計画推進プロジェクトチームに返還候補地に消防庁舎建設用地を取り入れていただくよう要望。当初返還跡地利用計画図には消防用地が無かった。

被災地支援から戻った市長から「南向きの、日の当たる場所へ行こう。」と号令

返還跡地利用構想に消防用地が設定され、耐震性、安全性に優れ、充実した機能を備えた新消防庁舎の建設が決定した。

新庁舎建設にあたっては他県など視察を重ね、平成24年度の基本構想から平成28年度工事着手の後平成30年に完了した。

構造規模 消防庁舎 鉄筋コンクリート造地上4階建て

高層訓練棟 鉄骨造 地上6階建

低層訓練棟 鉄骨造 地上3階建

総面積 5,240㎡

総事業費は21億超 補助金10億 起債7億 一般財源4億

平成23年10月にキャンプ座間が特定防衛施設の対象となったことから、「特定防衛施設調整交付金（防衛9条）」を活用した基金を設置して、交付金を基金化し、市民が防火防災の普及啓発ができる施設に充当。

平成26年3月に消防庁舎が防衛8条の対象施設となったことで、防衛8条についても特定財源として活用。

【所感】

旧消防庁舎は古く日の当たらない場所に建築されていたようです。東日本大震災の被災地支援に市長も同行なさって、市民を守るための防災拠点の充実や消防団、市民消防力の強化の必要性を肌で感じたようで「南向きの、日の当たる場所へ行こう」の号令のもと建設検討委員会が進められたようです。

現場の声を十分に反映しながら、委員会では激しい議論になりながらも互いを尊重しながら今の形になったと消防司令からご説明頂きました。家族で言えば子供が増えたら部屋を増やしたい間取りを変えたいと考えるだろうから、庁舎についてもより多くの消防力が必要な状況に変化した際には部屋を増やすことができるように車庫内に一部鉄骨がはみ出ている個所があるなど、今後も成長できる座間市消防庁舎の姿がありました。

庁舎を建て替えたことがきっかけなのか、別な要因なのかははっきりしませんが、消防職員の募集が増えたり、女性消防職員も増加したりなど明るい話題も耳にしました。

日頃から市民が集えるスペースがあり、防災教室や実戦さながらの消火訓練設備が常備されており、自治会活動などで訓練が定期的になされて市民消防力強化に力を入れている姿に感銘を受けました。